

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年2月24日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	27	2	3	9	21	35
令和6年	32	8	0	5	26	39
前年同期比	-5	-6	3	4	-5	-4

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	7	25.9%	0	1	2	12
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	7	25.9%	0	1	2	9	12
中央アルプス	2	7.4%	0	0	1	2	3
南アルプス	1	3.7%	0	0	1	0	1
八ヶ岳連峰	3	11.1%	0	0	2	1	3
その他の山岳	14	51.9%	2	2	3	9	16
計	27		2	3	9	21	35

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	3	11.1%	1	0	2	0	3
転倒	8	29.6%	1	0	7	0	8
病気	1	3.7%	0	0	0	1	1
道迷い	8	29.6%	0	0	0	13	13
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	1	3.7%	0	0	0	1	1
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	0	0.0%	0	0	0	0	0
不明・他	6	22.2%	0	3	0	6	9
計	27		2	3	9	21	35

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	2	2		0	0	0	0	0	2		
20代	0	0	0	4	4	12	0	0	0	1	1	5	15	
30代	0	2	1	3	6	38.7%	0	0	0	2	2	8	42.9%	
40代	1	0	3	2	6	11	0	0	0	0	0	6	12	
50代	0	0	1	4	5	35.5%	0	0	1	0	1	6	34.3%	
60代	0	0	3	2	5	8	0	0	0	0	0	5	8	
70以上	1	1	0	1	3	25.8%	0	0	0	0	0	3	22.9%	
計	2	3	8	18	31		0	0	1	3	4	35		
比率	88.6%						11.4%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（2/17～2/24）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
2月20日	焼額山	男	40	死亡	転倒	2人パーティでスキー場管理区域外を滑走中、転倒し、雪に埋没
2月22日	大川入山	男	36	無事救出	その他	2人パーティで下山中、滑落し、登山道に戻ることができず、行動不能
2月22日	木曾郡木曾町日義地籍 山吹山	男	60	負傷	転倒	単独で下山中に、凍結した登山道で転倒し、負傷
2月23日	ハケ岳連峰 阿弥陀岳	男	48	負傷	滑落	単独で阿弥陀岳山頂へ向けて登山中、バランスを崩して滑落、負傷
2月24日	中央アルプス 宝剣岳	男	27	無事救出	その他	2人パーティで宝剣山荘付近まで登山をしたものの、下山時に技量不足により行動不能
		女	26	無事救出	その他	
2月24日	北アルプス 唐松岳	男	34	行方不明	不明	単独で八方尾根から入山し、行方不明

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、6件の山岳遭難が発生しました。
 下山中の滑落や転倒による遭難が相次いで発生しています。
 遭難して救助要請をしても、市街地の110番通報や救急要請のように数分でパトカーや救急車が現場に到着するわけではありません。数時間、場合によってはその日は現場でビバークをしなければならないケースもあります。
 冬山の最大のリスクは「寒さ」です。怪我等で行動不能となった場合、次に考えなければならないのは「どうやって寒さから身を守るか」ということです。
 日帰りの予定であっても最低限、予備の防寒着、簡易シェルター、コンロ、非常食は携行してください。

**《遭難のリスクを自分事として考えて、
 「備え」を整えて入山しましょう》**